

# 梅津新聞

(中世編⑦)

2020年  
7月10日 火曜日

常陸太田市郷土資料館  
(西二町 2186)  
TEL:0294-72-3201

## くわしくふりかえる佐竹氏の470年間(6)

- 終 -

### 祝！常陸国統一！

おだわらじょう 小田原城が落城した天正18年(1590)8月1日、佐竹氏が以前より領地としてきた常陸国および下野国にある分国の土地が、改めて支配地として豊臣秀吉に認められました。さらに同年12月23日、秀吉から信頼される大名としての地位を確保し、徳川・上杉・前田・毛利・島津らとともに「六大将」の一人に数えられるまでになりました。

ちなみに秀吉から支配地として認められた領地の中には、まだ佐竹氏の支配が及んでいない場所がいくつかあります。それらをすべて制圧するために佐竹氏20代義宣は、まず江戸氏に水戸城を明け渡すように迫ります。しかし江戸氏がこれを拒否したため、天正18年

12月19日、義宣は水戸城を攻めました。劣勢に立たされた江戸氏は水戸城を捨て、当時の江戸氏当主重通の妻の実家である結城氏のもとに逃げたため、義宣は攻め入った翌日には水戸城を落とすことができました。ここから佐竹氏の拠点が、水戸に移されることになりました。

続いて義宣はそのまま南へ進み、府中(石岡市)も占拠します。さらに鹿島・行方郡を制圧するために天正19年2月9日、「南方三十三館」と呼ばれる両郡の豪族たちを、太田城で催す観梅の宴に招いて、一気に殺してしまいました。

そして同年2月23日、一時的に伊達政宗と通じていたという小野崎氏の額田城(那珂市)を攻め落とし、ここに常陸国統一を成し遂げたのでした。

その後文禄3年10月、石田三成が担当となつて行われた太閤検地により、文禄4年(1595)5月、佐竹氏は54万5800石<sup>※1</sup>の領地を与えられることになったのでした。



わたしは常陸国統一のために次々と城を攻め落とし、すでに佐竹氏の領地として秀吉に認められていた土地内での争いだったから、「惣無事」には違反していませんでした！

### 常陸国ゴールドラッシュ

さて常陸国を統一し、54万石の大名となった佐竹氏ですが、豊臣政権において領地と地位を保証された代償は大きなものでした。その一つが兵の動員です。朝鮮出兵や伏見城建設をはじめ、義宣が命じられた動員数は知られていないものだけでも3万5000人に達

※1 石高：太閤検地以降に使われた土地評価の単位で、玄米の生産高で示されます。

### 知っておきたい日本史 太閤検地

豊臣秀吉が行なった政策のひとつで、土地の権利関係を整理し、田畑を実際に測り、どれだけの年貢を納めるかを定めるものです。検地はこれまでも行われていましたが、戦国時代は農村側からの自己申告に基づいた検地だったため、多くのごまかしが生じていました。



しています。人員だけでなく、遠征費や武器などを作るための軍需費もかかり、これらは大きな負担となつてのしかかりました。そのため、常陸国内における金山開発は、めざましい発展をとげることになります。

茨城県北地域には、金山が多く分布しています。中世以降の開発の歴史を持つものが多く、「大久保」「金沢」「日立

市)「瀬谷」(常陸太田市) などがあります。この時に町屋の金山も開発されたものと思われませんが、坑道内にたまった水抜きに失敗したために閉山してしまっただけです。

これに対して秀吉は、佐竹氏の金山を取り上げて直轄とし、佐竹氏に預けるかたちをとりました。そしてとれた金の10分の1を納めるよう定めたのです。『慶長三年蔵納目録』という史料によると、佐竹氏が納めた金の量は、上杉景勝、

伊達政宗に次いで全国3位だったそうです。

### そして舞台は秋田へ…

慶長3年(1598)8月18日豊臣秀吉が亡くなると、加藤清正・福島正則などの武断派※2と石田三成・小西行長などの文治派※3とで対立が起こります。そしてその対立を利用して勢力拡大をはかったのが、豊臣家臣の中でも最大の

大名であった徳川家康でした。

このとき佐竹氏20代義宣は、太閤檢地の恩もあって、石田三成に味方をしていましたが、佐竹一門の東義久や義宣の父義重が家康の味方をするべきだと主張したこともあり、義宣の態度はなかなか決まらなかったといえます。

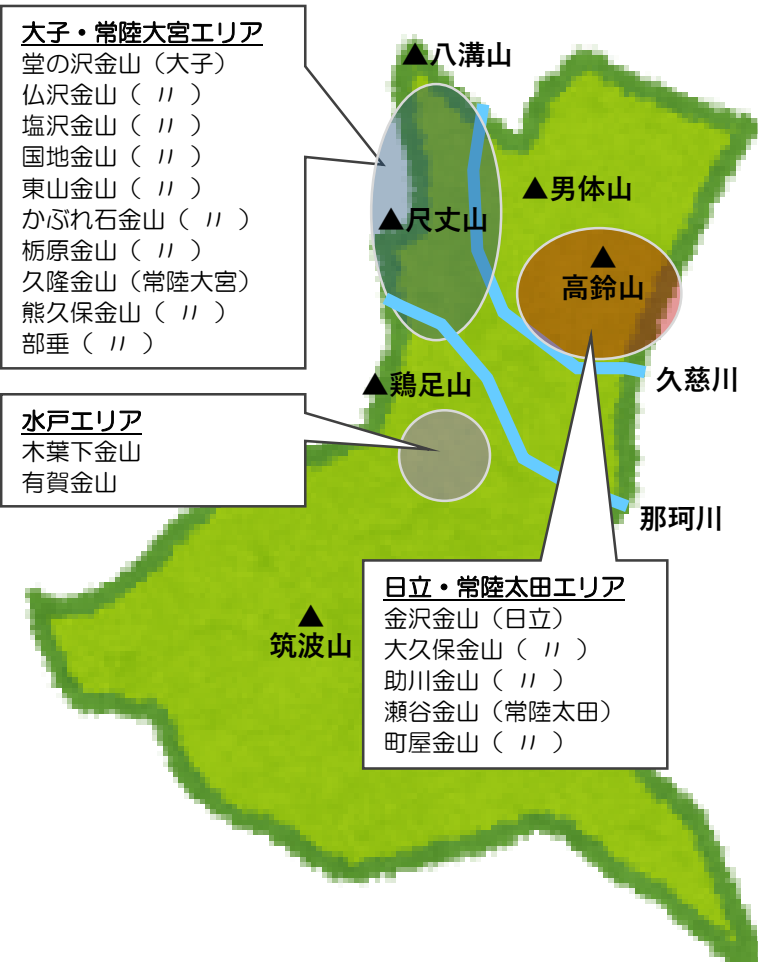
そして家康が勢力を広げていく状況に危機感を抱いた石田三成は、反徳川勢力を率いて、慶長5年(1600)、関ヶ原(岐阜県不破郡関ヶ原町)において徳川軍と対峙しました。いわゆる関ヶ原の戦いです。この戦いは家康方の圧勝で終わりましたが、半日程度という短時間で決着がついたため、義宣は参戦することができませんでした。そのうえ以前より石田三成と親しくしていたために態度

8日、家康から突然の国替え命令がくだされます。国替え先である出羽国での石高は20万石、領地が大幅に減らされてしまいました。義宣は伏見から常陸へ

使いを出し、国替え先の前領主の家臣や農民の反感を買わないようにするための諸注意や、領地が減ってしまったために連れていく家臣を制限するよう指示を伝えました。そして7月29日、義宣は伏見を出発し、常陸に寄ることなく出羽国に向かいました。

そして出羽国に到着した義宣は、慶長8年5月、新たな拠点として久保田城(秋田県秋田市)を建て、久保田藩初代藩主として、新しい土地で新たな政治を始めるのでした。

※2 武断派…武力をもって治めること  
 ※3 文治派…法律をもって治めること  
 ※4 謁見…目上の人に会うこと



↑ 主な金山の場所

が決めきれなかったこともあり、いつか処分がくだされるのではと心配していましたが、関ヶ原の戦いから翌慶長6年までは何事もなく過ぎていきます。慶長7年3月、義宣は伏見(京都府)に赴き、家康と豊臣秀吉の子秀頼に謁見※4しました。この時家康からは処分の話はなく、安心していた矢先の同年5月



470年間  
あいこう…